



# 奈良県感染症情報

令和5年 第41週(10月9日～10月15日)

奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)

<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

**咽頭結膜熱  
警報発令中!**

## 今週の概要

- インフルエンザに注意しましょう
- 気になる話題 - 梅毒が拡大しています -

## ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	インフルエンザ	5.85	(6.22)	↗	→	↗	↑
2	新型コロナウイルス感染症	4.65	(5.38)	↓	↓	↓	→
3	咽頭結膜熱	4.15	(3.50)	↗	↗	↗	↘
4	A群溶連菌咽頭炎	3.15	(3.53)	→	→	→	↗
5	感染性胃腸炎	2.38	(3.18)	↘	→	↘	↘

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)

※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。

増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

## ◆ 県内概況 ◆

第41週のインフルエンザの定点あたり報告数は5.85でした。県全域で報告されていますが、中和地区西部では定点あたり報告数が前週の6.7から10.0に大きく増加し、地域流行が見られます。

新型コロナウイルス感染症の定点当たりの報告数は4.65で、前週に続いて減少しました。

咽頭結膜熱(プール熱)の定点あたり報告数は4.15で依然として警報レベルにあります。県中部での報告数が特に多い状態です。

A群溶連菌咽頭炎の定点あたり報告数も3.15と高い水準が続いており、中和地区西部における地域流行が継続しています。

上記のように呼吸器感染症が流行しています。今は気温の変化が大きく、感染症にかかりやすい時期といえます。咳エチケット、手洗い、換気、距離、マスクの適切な着用といった感染対策をお願いします。

## ◆ インフルエンザに注意しましょう ◆

今年は、例年の同時期に比べて定点あたりのインフルエンザ報告数が多い状態です。

季節性インフルエンザのウイルスには、A(H1N1)亜型、A(H3N2)亜型、2系統のB型の4種類があります。新型コロナウイルス感染症が流行していた2020年から2022年はインフルエンザの流行が低調であったこと等の影響で、A(H1N1)亜型やA(H3N2)亜型の抗体保有率が全年齢で低下傾向にあるとされ、インフルエンザの流行が起こりやすい状況と考えられます。

感染対策は、飛沫感染対策や接触感染対策が有効です。マスクの着用、手洗い等による手指の衛生、人と人との距離の確保など、新型コロナウイルスの感染対策と共通しています。

ワクチンの予防接種には、発症をある程度抑える効果や重症化を予防する効果があります。高齢者や基礎疾患のある方など、重症化する可能性が高い方には効果的と考えられます。

また、インフルエンザにかかった際には、異常行動(急に走り出す、ウロウロするなど)が現れることがあります。まれには事故につながる重度の異常行動が見られ、就学以降の小児や未成年男性で多いとされています。保護者等は窓からの転落などの事故防止への配慮をされると良いでしょう。

できる対策をして、これからの季節に備えてください。



参考: 令和5年度インフルエンザQ&A(厚生労働省)

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/infuleza/QA2023.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/infuleza/QA2023.html)

❖ 定点把握感染症報告状況 ❖

令和 5 年 第 41 週 10 月 9 日 ~ 10 月 15 日

保健所別報告数	奈良県		北部		中部		南部
	奈良市	郡山	中和(東)	中和(西)	吉野		
インフルエンザ/COVID-19定点数	55	14	14	11	10	6	
インフルエンザ	322 (5.85)	63 (4.50)	85 (6.07)	57 (5.18)	100 (10.00)	17 (2.83)	
新型コロナウイルス感染症	256 (4.65)	30 (2.14)	70 (5.00)	48 (4.36)	45 (4.50)	63 (10.50)	
小児科定点数	34	9	9	7	6	3	
RSウイルス感染症							
咽頭結膜熱	141 (4.15)	9 (1.00)	12 (1.33)	24 (3.43)	90 (15.00)	6 (2.00)	
A群溶連菌咽頭炎	107 (3.15)	15 (1.67)	14 (1.56)	7 (1.00)	67 (11.17)	4 (1.33)	
感染性胃腸炎	81 (2.38)	21 (2.33)	27 (3.00)	11 (1.57)	17 (2.83)	5 (1.67)	
水痘	2 (0.06)			1 (0.14)		1 (0.33)	
手足口病	19 (0.56)	7 (0.78)	5 (0.56)	6 (0.86)	1		
伝染性紅斑	1 (0.03)		1 (0.11)				
突発性発しん	9 (0.26)	2 (0.22)	3 (0.33)	2 (0.29)	2 (0.33)		
ヘルパンギーナ	6 (0.18)	4 (0.44)				2 (0.67)	
流行性耳下腺炎							
眼科定点数	10	3	3	2	2	0	
急性出血性結膜炎							
流行性角結膜炎	8 (0.80)	3 (1.00)	3 (1.00)	2 (1.00)			
基幹定点数	6	1	2	1	1	1	
細菌性髄膜炎	1 (0.17)		1 (0.50)				
無菌性髄膜炎	1 (0.17)			1 (1.00)			
マイコプラズマ肺炎							
クラミジア肺炎							
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)							

❖ 全数把握感染症報告状況 ❖ ( )は保健所別内訳

1類感染症	
2類感染症	結核5件(奈良市3件、郡山1、中和1)
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症1件(中和1)
4類感染症	
5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症1件(奈良市1) 梅毒2件(奈良市1、郡山1)

❖ 入院基幹定点報告状況 ❖

インフルエンザ	5	新型コロナウイルス感染症	28
---------	---	--------------	----

基幹定点医療機関(6施設)の合計数を掲載しています

❖ 第41週のトピックス ❖

令和5年度今シーズンのインフルエンザ総合対策について(厚生労働省)

<https://www.mhlw.go.jp/stf/index2023.html>

※データは報告数集計の速報値として公開するものであり、後日奈良県感染症情報(週報)、さらには確定データとしての年報において修正される場合があります。

※令和3年12月20日より内吉野保健所は吉野保健所に統合されましたので、旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

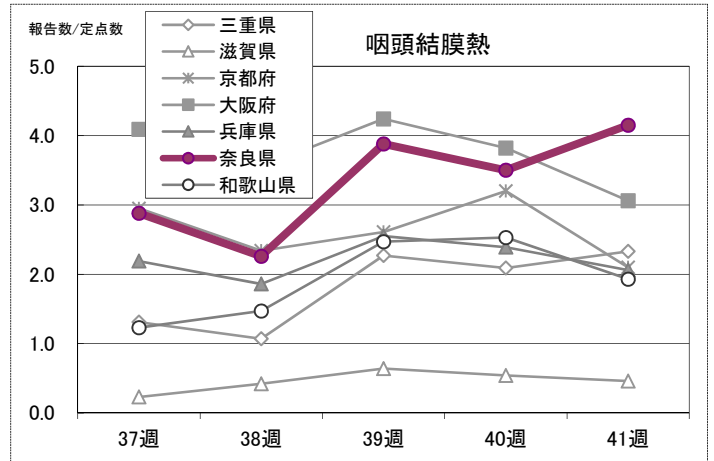
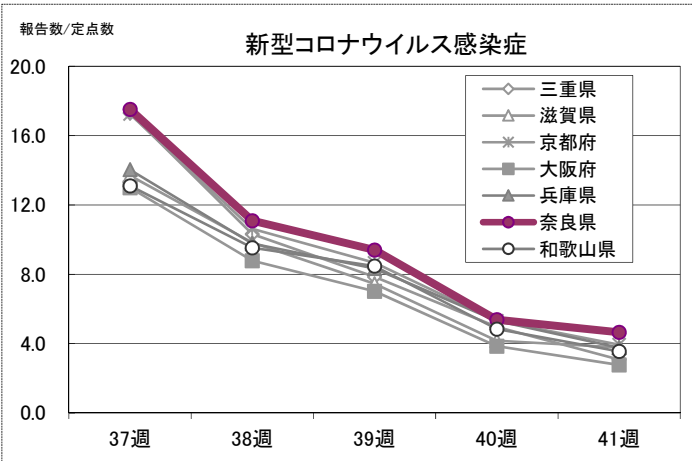
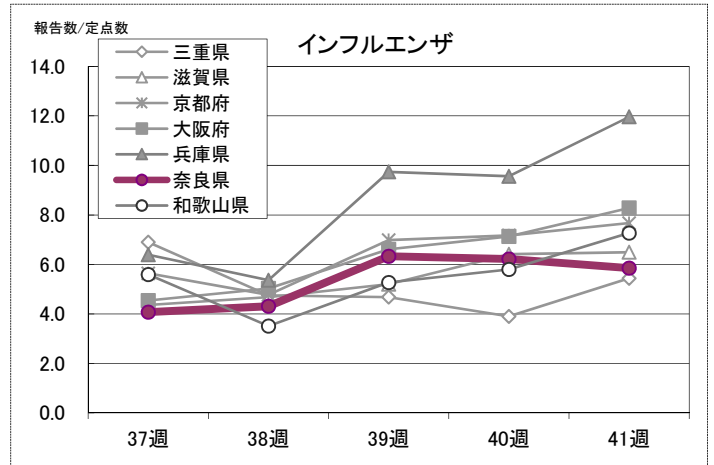
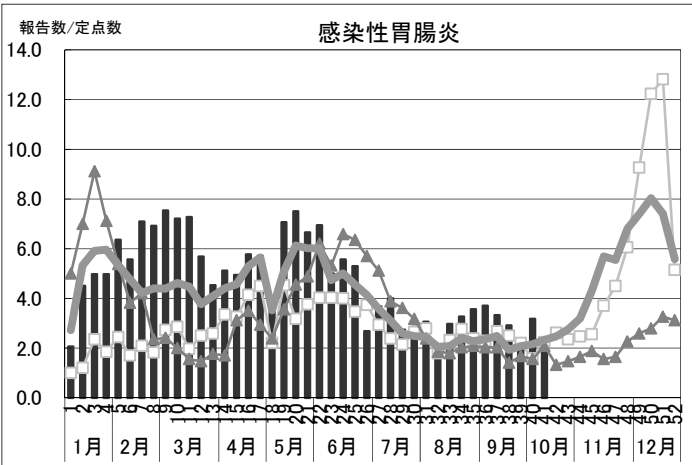
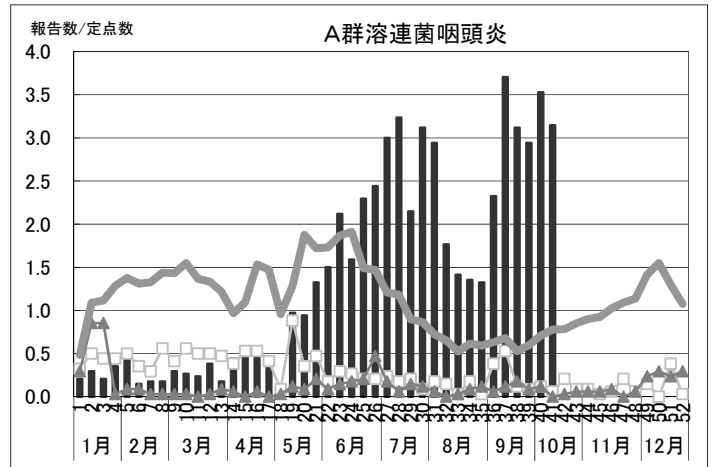
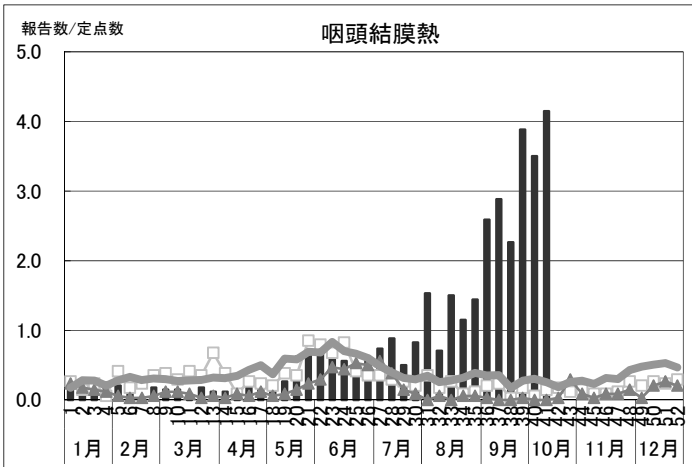
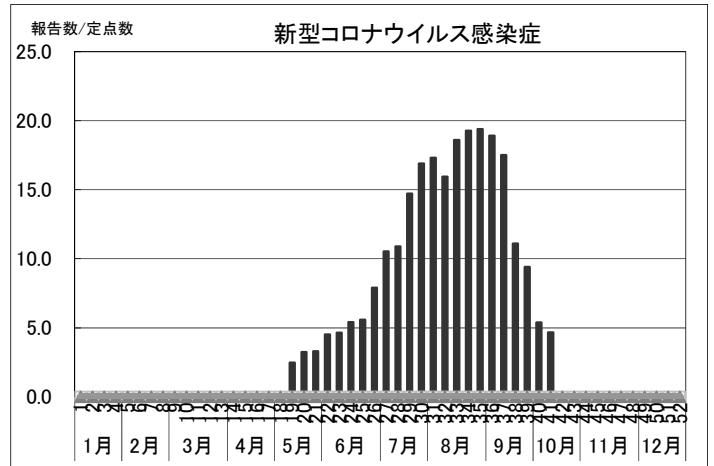
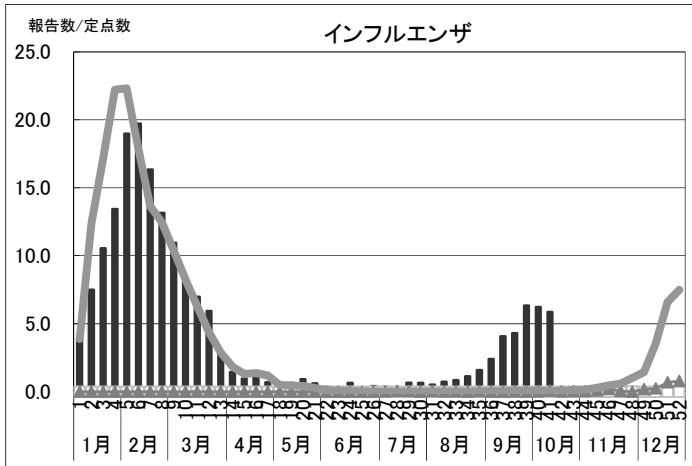
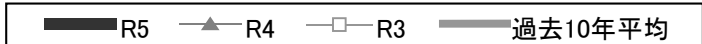
※平成27年2月16日より桜井保健所と葛城保健所は統合され中和保健所となりました。旧桜井保健所分は中和(東)、旧葛城保健所分は中和(西)として集計しています。

上段 : 報告数  
(下段) : 定点当たり報告数 報告数÷定点数

年齢別報告数

年齢区分	年齢	0-5M	6-11M	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-	合計	累計
インフルエンザ	男			5	4	3	3	7	9	15	9	3	65	46	6	5	13	7	1	1	1	203	5467
	女			1	3	3	4	7	5	12	6	6	34	11	4	7	10	7	2			119	4608
新型コロナウイルス感染症	男	3	1	2	3	3	2	1		1	6	2	7	8	10	13	10	14	13	15	15	129	6364
	女	1		1	3	1		3	1	3	1	1	4	6	11	15	11	18	13	17	17	127	7248
RSウイルス感染症	男																						1059
	女																						911
咽頭結膜熱	男		2	10	13	8	15	10	11	3	3	1	1									77	655
	女		1	13	13	10	5	7	9	4	2												64
A群溶連菌咽頭炎	男			2	3	8	7	7	6	7	6	1	6		2							55	1103
	女			2	3	2	5	9	7	9	3	2	7		3							52	856
感染性胃腸炎	男		2	10	10	7	5	3	2	3	1	1	5	2	8							59	3593
	女			3	1	2	2	3	3	3		2	1	1	2							22	2930
水痘	男			1																		1	65
	女						1															1	41
手足口病	男		2	4	3	1	2															12	253
	女			4	2										1							7	187
伝染性紅斑	男																					1	5
	女			1																		1	8
突発性発しん	男			1	4																	5	204
	女				3	1																4	166
ヘルパンギーナ	男				1	1			1	1												4	881
	女						1															2	732
流行性耳下腺炎	男																						15
	女																						20
急性出血性結膜炎	男																						3
	女												1										6
流行性角結膜炎	男				1			1					1										2
	女															2		1	1	1			6
細菌性髄膜炎	男																						1
	女																						1
無菌性髄膜炎	男																						1
	女																						2
マイコプラズマ肺炎	男																						2
	女																						1
クラミジア肺炎	男																						1
	女																						1

❖注目疾患の動向❖ 全て定点当たり報告数



## — 梅毒が拡大しています —

### ☆梅毒とは

梅毒は、梅毒トレポネーマという病原体が原因の感染症で、主に**性的接触により感染**します。オーラルセックス（口腔性交）やアナルセックス（肛門性交）などでも感染します。梅毒に感染すると、性器や口の中に小豆から指先くらいのただれができたり、手のひらや体中に痛み、かゆみのない発疹ができたりします。**自然に症状が消えても、体の中で病原体が潜伏していることがあるため、注意が必要です。**治療に有効な抗菌薬がありますが、**治療をしないまま放置していると、数年から数十年の間に心臓や血管、脳などの複数の臓器に拡がり、死に至る**こともあります。

2011年頃から全国的に報告数が増加傾向になり、2019年、2020年にはいったん減少したものの、2021年以降は大きく増加しています。男性は20代～50代、女性は20代で報告が多い状況です。

多数の人と性的接触を持つと感染する（または感染させる）リスクが高まります。また、一度完治しても生涯にわたる免疫（終生免疫）は得られず、**再感染**する可能性があります。

予防には、性交渉時のコンドームの適切な使用が重要ですが、コンドームで覆わない部分で感染が起こることもあるため、完全に感染を防ぐことはできません。皮膚や粘膜に異常がある場合は性的接触を控え、医療機関を受診して下さい。

### ☆妊娠中の梅毒感染は特に危険です

**妊娠している人**が梅毒に感染すると、母親だけでなく胎盤を通じて胎児にも感染し、**先天梅毒**になることがあります。先天梅毒になると、**死産や早産になったり、生まれてくる子どもの神経や骨などに異常をきたしたり**することがあります。生まれたときに症状がなくても、遅れて症状が出ることもあります。

近年、先天梅毒の報告が多くなっており、2022年には県内での報告もありました。

### ☆奈良県の状況

奈良県も全国同様に梅毒患者の報告は増加しており、2023年は、報告数の多かった2022年を上回る勢いで報告数が増加しています。

男性は20代～40代の報告数が増加傾向、女性は10代・20代の報告数が特に増加しています。

### ☆症状があるときや不安なときは早めの検査を

梅毒は、早期発見・早期治療で治る病気です。

**男女ともに、親となる年齢層からの報告が多くなっていますので、注意が必要です。**

症状があるときや、不安なときは、パートナーと一緒に**必ず検査を受ける**ようにして下さい。



NESID(感染症サーベイランスシステム)から集計

※2023年は8月時点の報告数

感染症情報センター